

The logo consists of the word "mipox" in a white, lowercase, sans-serif font, centered within a blue, rounded rectangular background.

mipox

2022年3月期 第2四半期決算説明会

Mipox株式会社(マイボックス)  
証券コード 5381

01 事業内容	-----	<b>mipox</b>
02 業績概要	-----	2022年3月期 第2四半期
03 業績見通し	-----	2022年3月期 通期
04 取り組み	-----	2022年3月期 下期以降

# 01 事業内容

**mipox**

会社名	Mipox(マイポックス)株式会社
英文名	Mipox Corporation
創業	大正14年(1925)年11月21日
設立	昭和16年(1941)年12月12日
代表取締役社長	渡邊 淳 (Jun Watanabe)
本店	〒409-1501 山梨県北杜市大泉町西井出8566 (山梨工場)
本社	〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-11-3 Dタワー西新宿16階
株式市場名	東京証券取引所 JASDAQ
証券コード	5381



## Mipox(マイポックス)の名前の由来

ミクロの研磨を表す「Micro Polish」・鏡面の威力を表す「Mirror Power」双方の頭文字と、無限の可能性を秘めた「X」を添えて「Mipox」となったのが由来です。

ミクロの研磨  
**MICRO POLISH**  
 鏡面の威力  
**MIRROR POWER**  
 無限の可能性を秘めた  
**X**

1925

独逸顔料合名会社



1981

日本マイクロコーティング (株)

製品ブランド「MIPOX」 **MIPOX**



2013

Mipox株式会社



### 『塗る・切る・磨くで世界を変える』

我々は1925年の創業以来、メーカーとして培ってきた当社のコア技術である

「塗る・切る・磨く」と共に発展してまいりました。

この「塗る・切る・磨く」を通して、世界の変化を支えることが我々が果たすべき役割であり存在意義であります。

### 経営方針

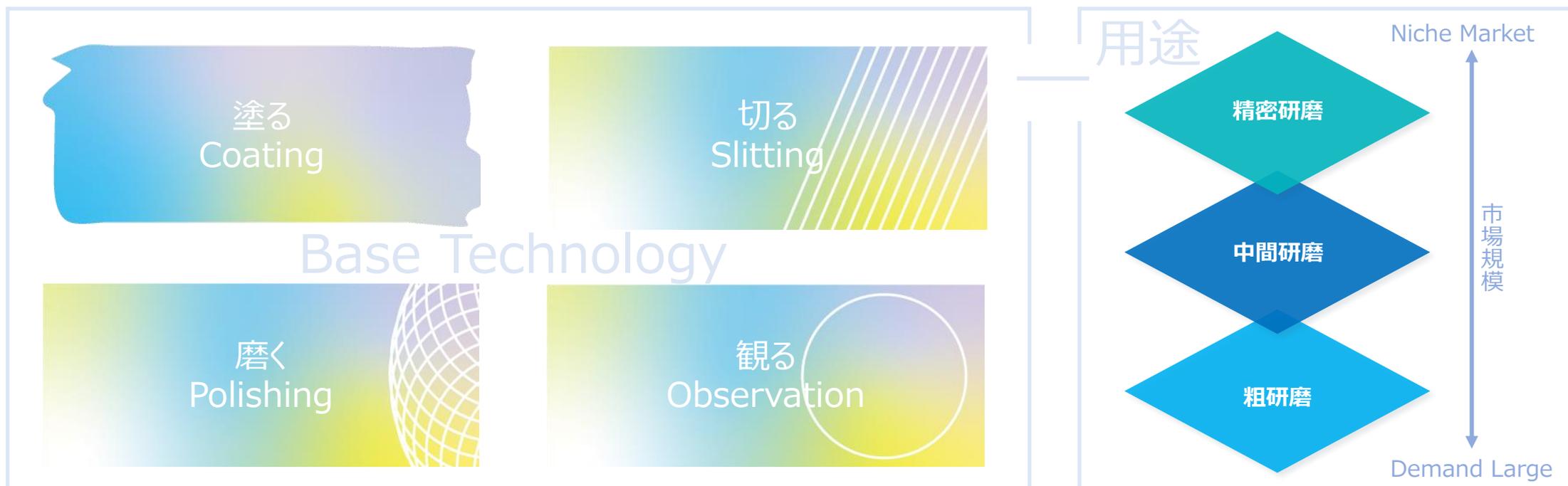
エンジニアリングアプローチによる製品事業の付加価値向上

受託事業からエンジニアリングサービス事業への転換

早い変化と多様性に対応できる経営基盤の整備

## 「塗る、切る、磨く、観る」を極めた技術力

創業から続く箔の製造技術を応用することで「塗る」「切る」「磨く」技術をコアにした事業を展開した企業であり、最近では、当社の研磨品質が”市場に検査できる装置がない”というレベルにまで達し、検査装置の拡充も後押しし、現在は「観る」技術もコア技術に加えた「塗る、切る、磨く、観る」をコア技術としています。



Mipoxでは、自社製品の製造のみならず、受託事業も手がけております。

研磨業界において、世界シェアを誇る分野をもつニッチトップコンバーターです。

## 製品事業

一般研磨関連  
ハイテク関連

研磨材を開発・製造して、販売をしています。  
超精密研磨から一般研磨、装置や反射材など、世界中の幅広い用途で当社製品を提供しています。



研磨フィルム



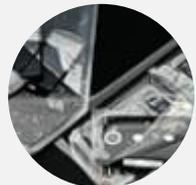
液体研磨剤



研磨関連製品



研磨布紙製品



機能性フィルム



研磨周辺機器



検査装置



夜光反射材(Ref Lite)

## 受託事業

受託研磨加工  
受託塗布・スリット

受託研磨は、主に半導体用途を中心に、ウェーハをはじめとする材料をお客様よりお預かりし、弊社が保有する設備（研磨装置、洗浄機、検査装置）と弊社独自の研磨材を用いて、お客様の要望に沿った研磨加工を提供。受託コーティング・スリットは、お客様の基材(フィルム等)や塗料材をお預かりし、弊社が保有する設備（調合、コーティング、スリット）を用いてフィルム化。



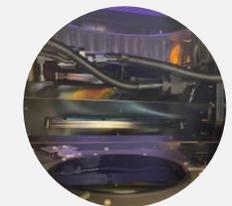
塗布製品



研磨加工



コンバーティング



常温接合加工

## 02業績概要

2022年3月期  
第2四半期

## 2022年3月期 第2四半期 業績サマリー

売上好調により、増収増益となりました。

売上高 (Q2累計)

**5,054** (百万円)

前年同期比較 (Q2累計)  
1,576 (百万円) 増

営業利益 (Q2累計)

**840** (百万円)

前年同期比較 (Q2累計)  
713 (百万円) 増

経常利益 (Q2累計)

**791** (百万円)

前年同期比較 (Q2累計)  
761 (百万円) 増

<sup>\*</sup>  
純利益 (Q2累計)

**652** (百万円)

前年同期比較 (Q2累計)  
633 (百万円) 増

\*親会社株主に帰属

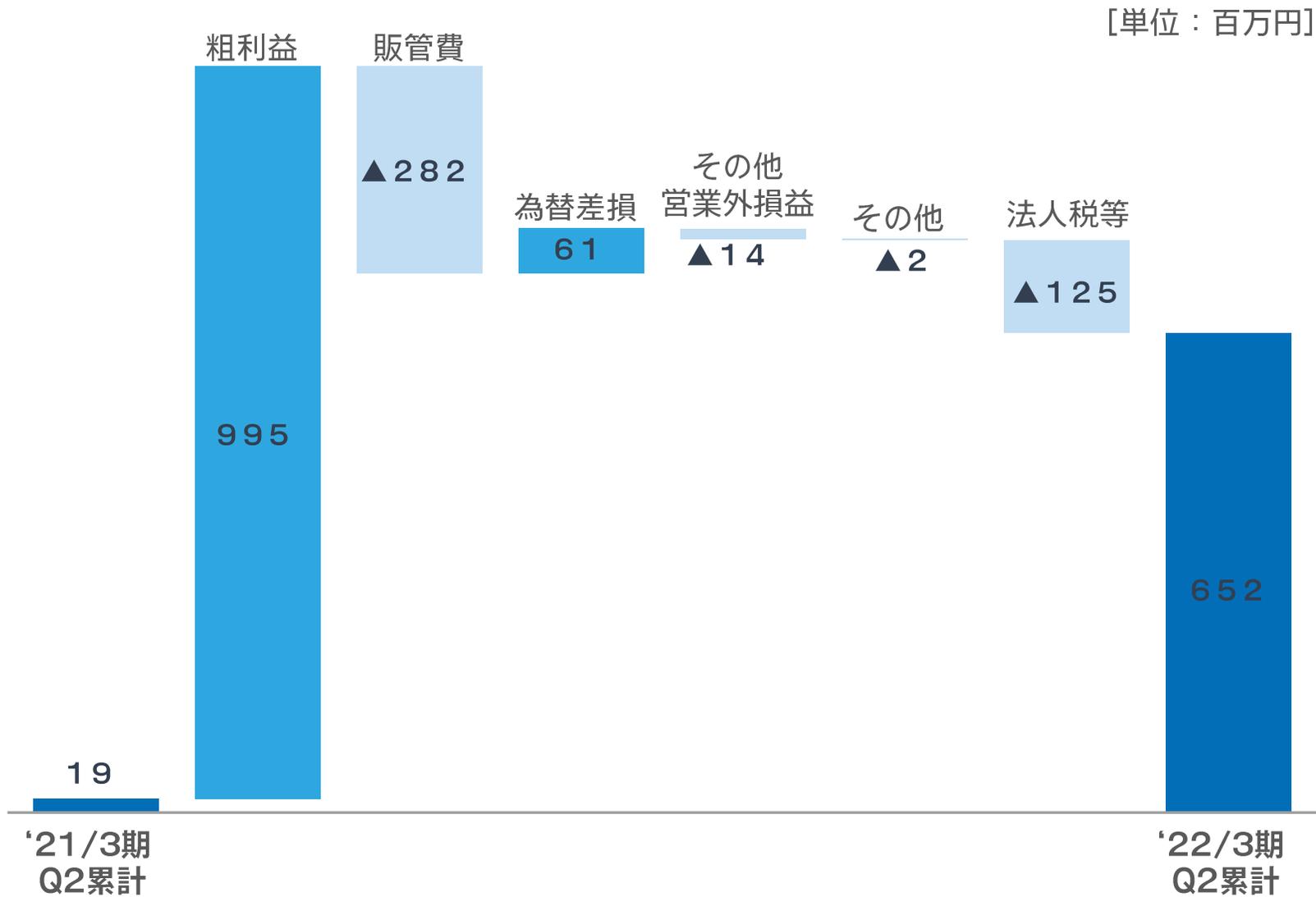
### 【売上要因】

製品事業・受託事業共に売上が好調に推移し、前年を大きく上回りました。

巣ごもり・テレワークの普及によりデータ需要の高まりに伴い、製品事業のハイテク関連を中心に売上が増加。

次世代ディスプレイ用部材の生産が本格稼働したことが主要因で売上増加。

\* 親会社に帰属する当期純利益



2021年3月期 第2四半期

純利益 (Q2累計)

19 (百万円)

+633 (百万円)

2022年3月期 第2四半期

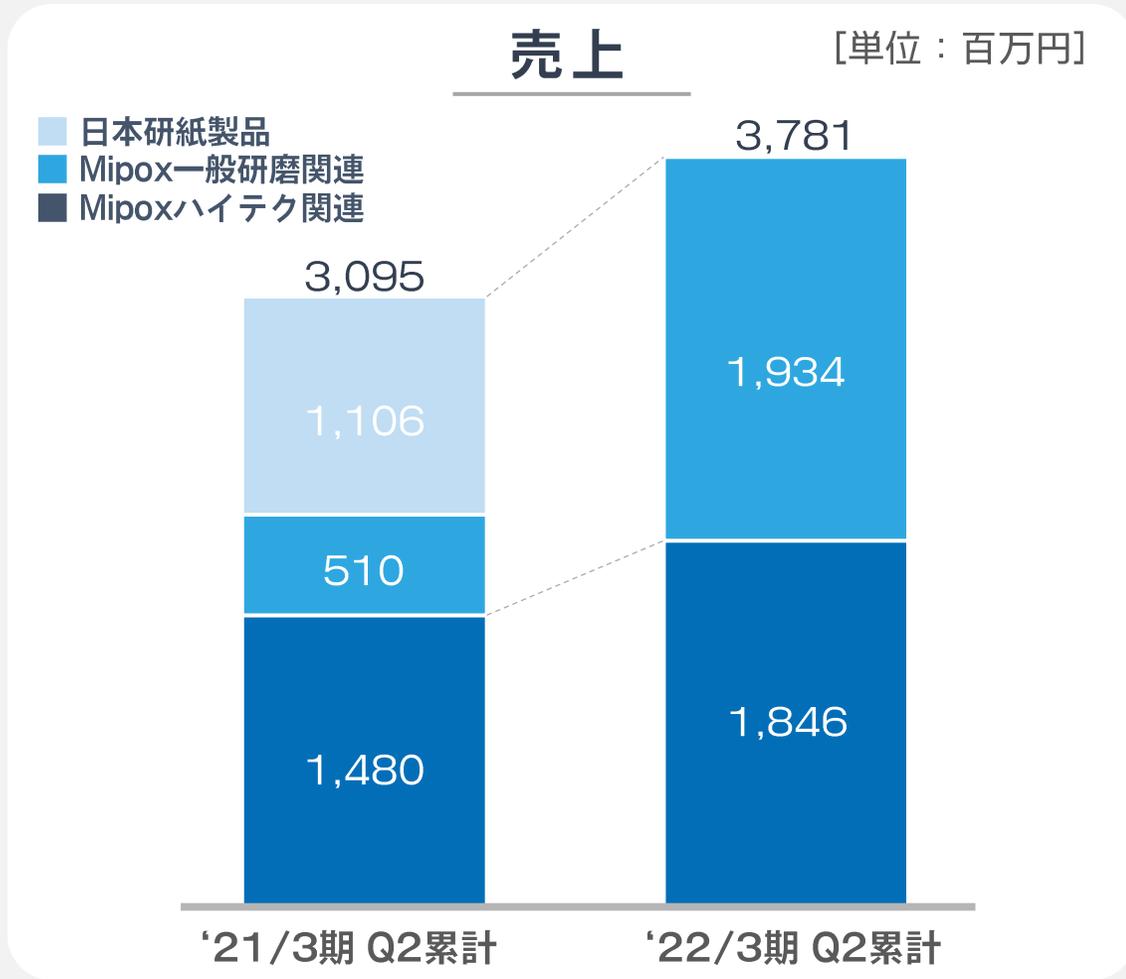
純利益 (Q2累計)

652 (百万円)

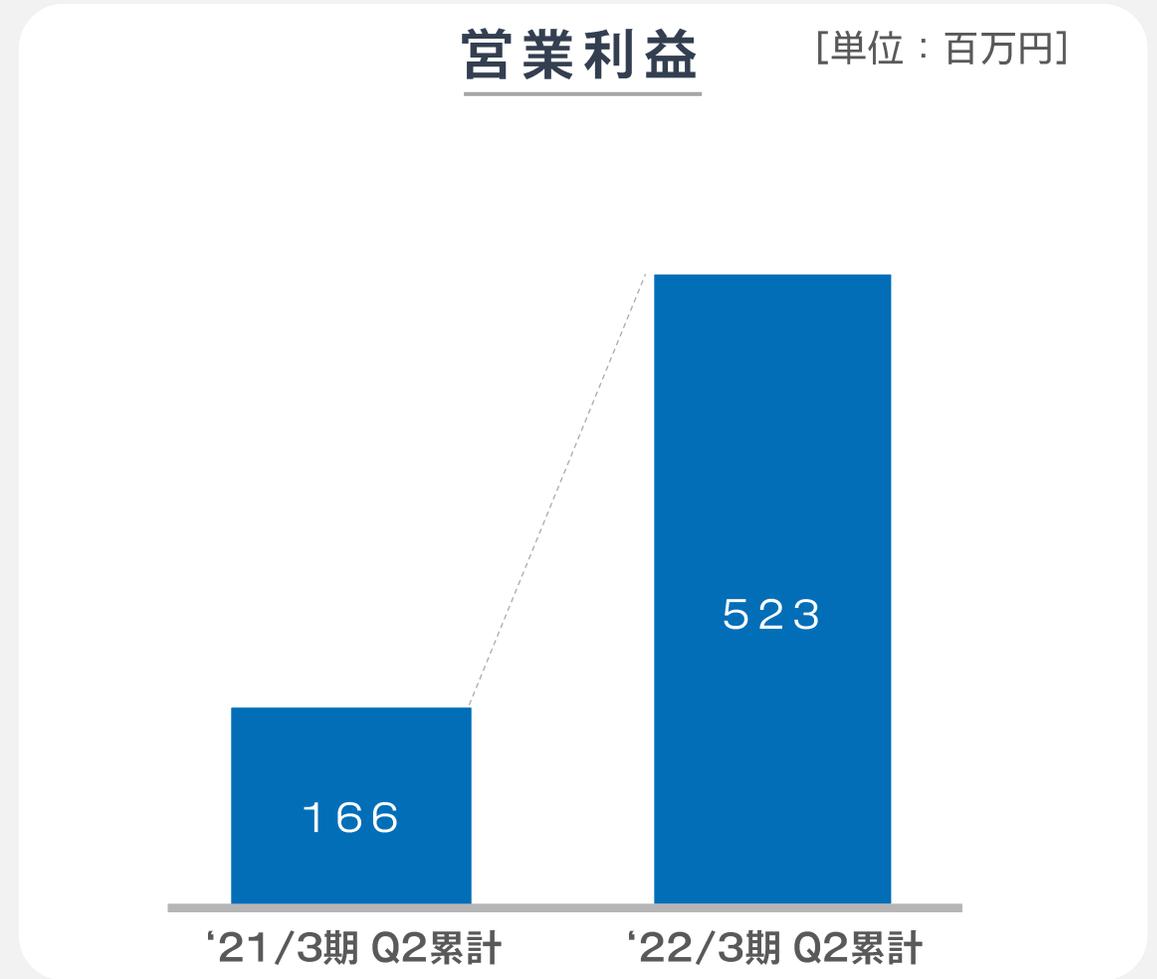
### 【利益要因】

利益率の高い製品の売上構成が高まり、半導体関連の受託研磨サービスを中心に売上の増加により増益。

利益率の高い製品の売上構成が高まったこと等により増収増益

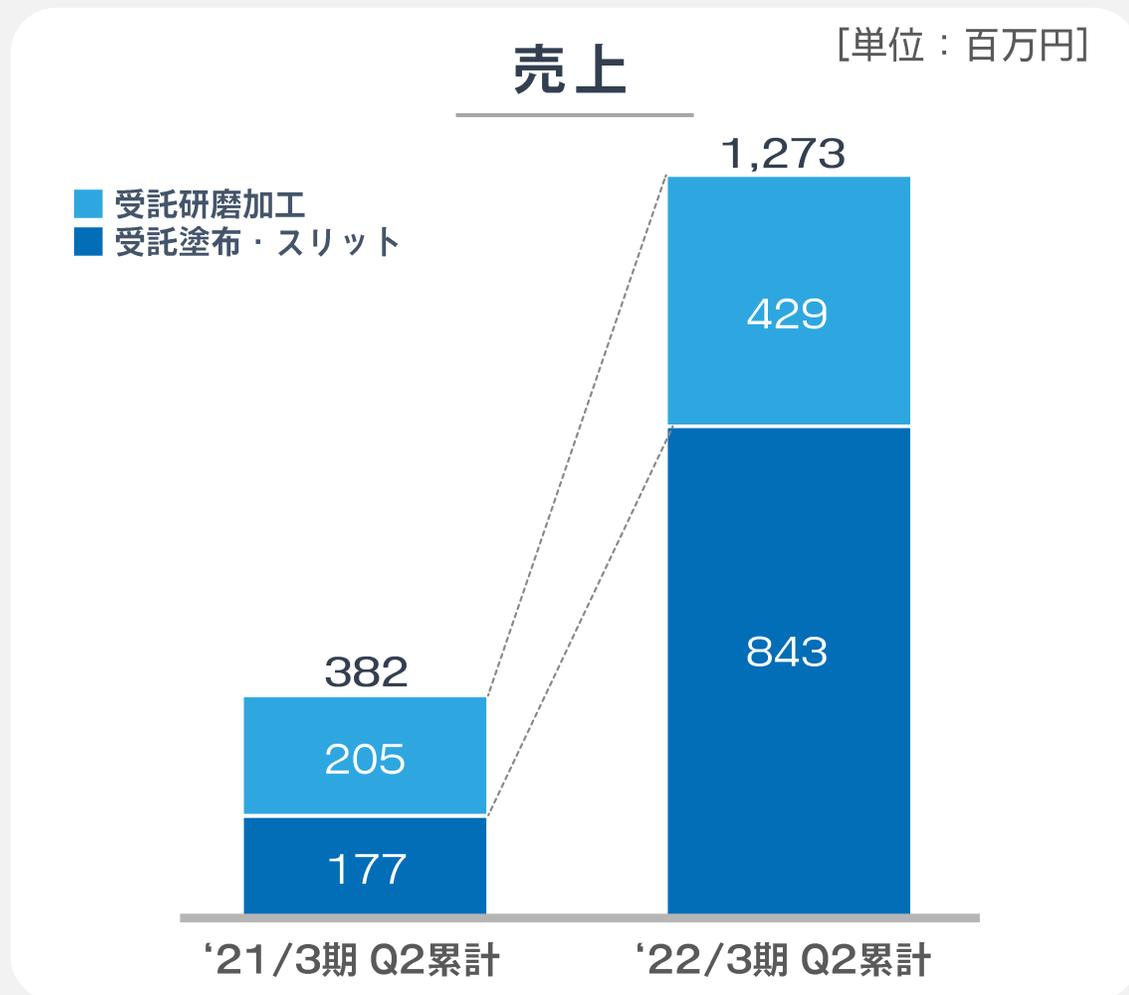


前年同期比較 (Q2累計)

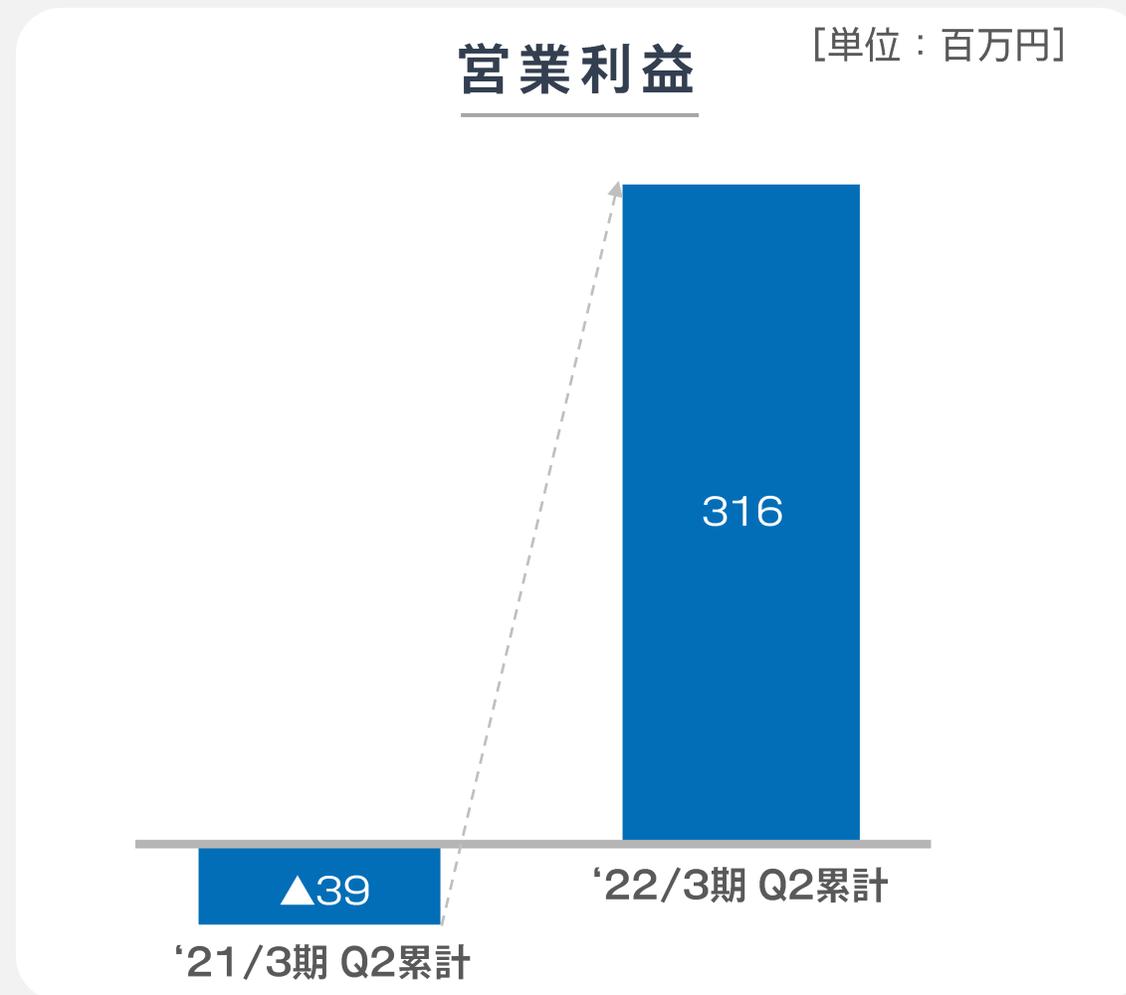


前年同期比較 (Q2累計)

## 受託研磨加工、受託塗布・スリットともに売上が好調により増収増益



前年同期比較 (Q2累計)



前年同期比較 (Q2累計)

[単位：百万円]	2021年3月末	2021年9月末	増減 <sup>※</sup>
流動資産	7,802	8,335	+532
うち 現金及び預金	3,020	3,280	+259
固定資産	3,498	3,448	▲ 50
うち 有形固定資産	3,172	3,008	▲ 163
<b>資産合計</b>	<b>11,300</b>	<b>11,783</b>	<b>+482</b>
流動負債	3,329	3,604	+274
うち 短期借入金（社債含む）	1,684	1,670	▲ 14
固定負債	3,598	3,174	▲ 424
うち 長期借入金（社債含む）	3,031	2,638	▲ 392
<b>負債合計</b>	<b>6,928</b>	<b>6,778</b>	<b>▲ 149</b>
<b>純資産合計</b>	<b>4,372</b>	<b>5,004</b>	<b>+631</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>11,300</b>	<b>11,783</b>	<b>+482</b>
<b>借入金合計</b>	<b>4,716</b>	<b>4,309</b>	<b>▲ 407</b>

2022年3月期  
第2四半期

総資産

**11,783**  
(百万円)

純資産

**5,004**  
(百万円)

自己資本比率

**42.5%**

※増減算出後百万未満切捨て

## 03 業績見通し

2022年3月期  
通期

## 2022年3月期 通期連結業績予想については上方修正

## 【修正理由】

	'21/3 通期 実績	'22/3 通期 見通し	増減額	増減率
売上高	7,361	9,300	1,939	26.3%
営業利益	359	1,300	941	262.1%
経常利益	301	1,200	899	298.6%
純利益*	87	900	813	934.4%

\*親会社株主に帰属

当数字は11/12時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により異なる可能性があります。

当第2四半期連結会計期間の実績を踏まえつつ、足元の受注環境等を精査した結果、製品事業及び受託事業ともに想定を上回る売上を確保できたこと。

受託事業の受託コーティング・スリットサービスの生産が本格稼働したことが主要因で前回予測を大幅に上回る結果となった。

利益面については、受託事業の売上に伴い増益予測。

## 製品事業および受託事業ともに売上増加を見込む

### 製品事業

一般研磨関連  
ハイテク関連

引き続き、巣ごもり・テレワークなどによるデータセンター向けのハイテク関連等利益率の高い構成となり、好調推移の見通し。

自動車分野においては、半導体不足等の影響が懸念されていますが、下期以降生産台数は回復する見通し。

主に重研削向けの新製品を投入し売上の増加を見込む。

### 受託事業

受託研磨加工  
受託塗布・スリット

受託塗布・スリットにおいては大型受注を始め、堅調に増加する見通し。

受託研磨関連は次世代半導体関連の国内外からの需要の高まりを受け、新規案件の引き合いも多く、堅調に増加する見通し。

受託研磨の新サービスを開始し売上の増加を見込む。

## 資金使途の変更について

2018年3月5日付「第三者割当による平成30年第1回新株予約権の発行に関するお知らせ」にて公表いたしました「調達する資金の具体的な使途」について、2021年11月12日の取締役会において、変更することといたしました。



655百万円を栃木県鹿沼工場取得へ使途変更

## 資金調達について

固定資産（鹿沼工場）の取得、新規機械設備の導入及び付帯設備工事における資金調達を目指し、2021年11月12日付「第三者割当による第2回新株予約権の発行に関するお知らせ」及び2021年11月18日付「第三者割当による第2回新株予約権の発行条件等の決定に関するお知らせ」にて公表いたしましたとおり、資金調達を実施いたします。



※資金使途の金額は、当初行使価額（1,131円）で全ての行使が行われた場合を前提として記載しております。



固定資産（鹿沼工場）の取得目的についてはP.24をご覧ください。

## 年間配当

2021年3月期

無配

2022年3月期

未定

2022年3月期は現時点で未定。

今後、業績動向や財務状況などを総合的に勘案したうえで決定してまいります。

## 04 取り組み

2022年3月期  
下期以降

次世代半導体の「課題」解決に対するニーズの高まり。  
Mipoxのコア技術を組み合わせた「創造」×「エンジニアリング」で応えます。



### データセンター

通信インフラ増強の加速、クラウドサービスの増加、情報処理量の増加

### 省エネ社会

脱炭素社会、電気自動車・電動化・自動運転の実用化、低燃費、発電関連、高輝度照明

### 高速通信網5G・6G

遠隔・働き方改革、自動運転・無人化、大容量、高速化、記録、人工知能 (AI) スマート農業、教育 (学習) 機会創出、仮想空間コミュニケーション

### 安心・安全

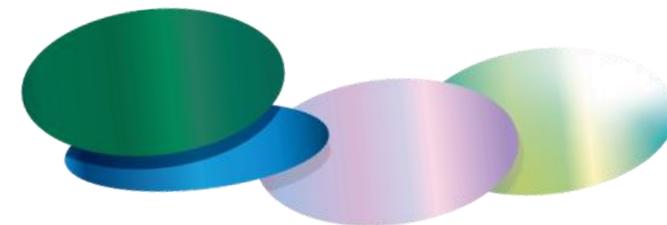
次世代光源「深紫外線LED」

Mipoxのコア技術である「磨く」を基軸に、研磨剤（研磨材）各製品・研磨装置・受託研磨に加え、次世代ハイブリッドウェーハ向け常温接合技術との融合を図っていきます。

市場におけるMipoxのイネーブラーとしての存在価値をさらに高めていきます。

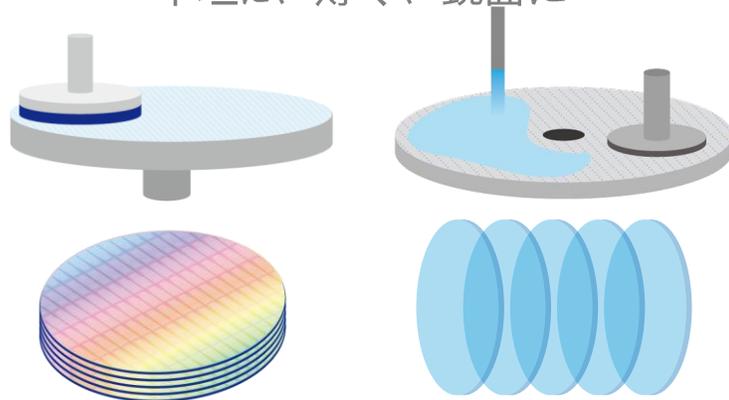
次世代ハイブリッドウェーハ「Engineered Substrate」の創出

次世代半導体でカギとなる「耐熱性・耐久性」

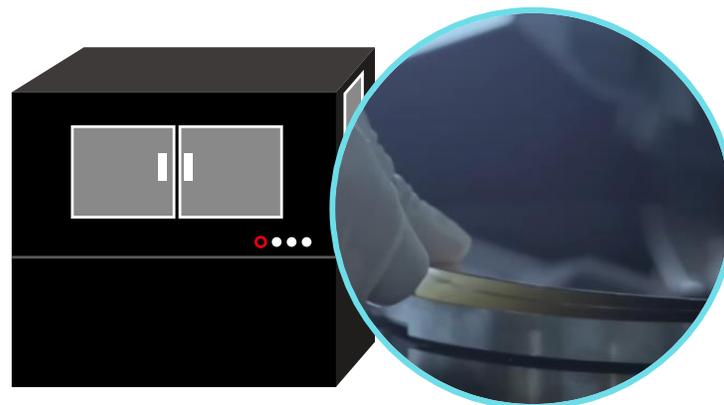


研磨加工（CMP）技術  
あらゆる材料を高精度平坦化

平坦に、薄く、鏡面に



次世代半導体ウェーハ向け  
専用研磨装置の開発



研磨加工（CMP）・常温接合  
ワンストップソリューションの展開



## 新サービス・事業・体制強化にむけた多角的な取り組み

### 新エッジ研磨加工サービスを提供開始

究極の次世代パワー半導体材料として期待されている「ダイヤモンドウェーハ」に対して安定したエッジトリートメント加工（面取り加工、ミラー処理等）を施せる工法を確立し、Mipoxが展開する受託研磨加工サービスの一つとして提供を開始いたしました。



加工前

辺部分の面取り

コーナーのラウンド加工

### SiC単結晶の量産化に向けた新たな事業開始



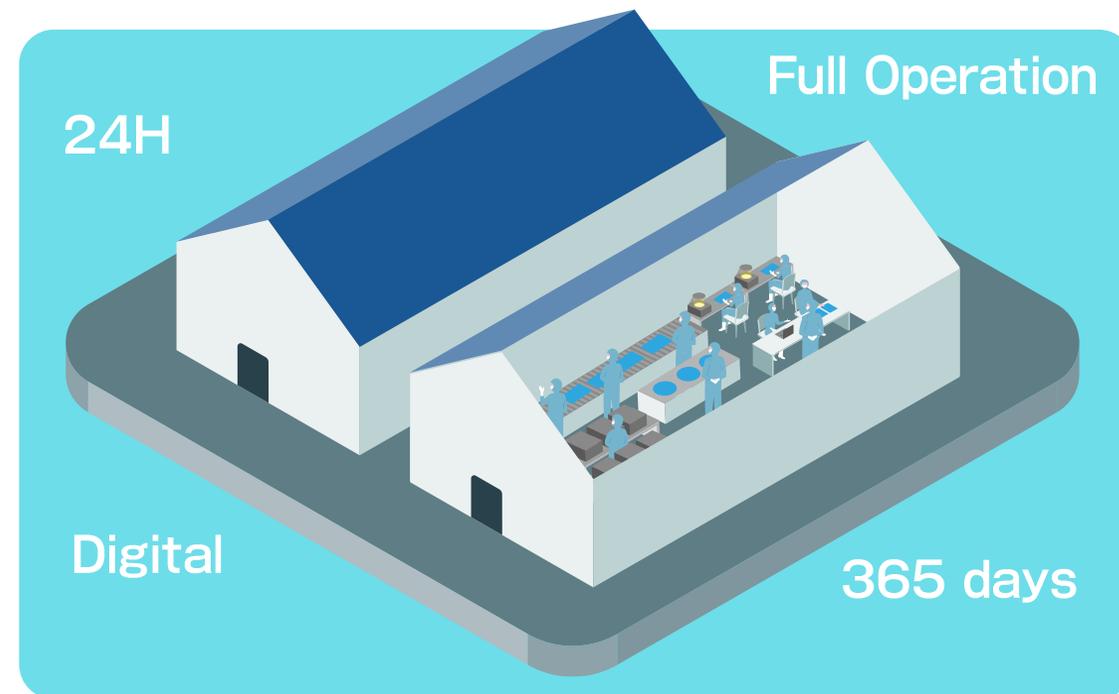
研磨・加工技術・検査分析技術

溶液法パワー半導体SiC単結晶の育成

結晶成長、基板から研磨、加工、検査まで一気通貫で開発できる体制を構築することを目的とし、SiC単結晶の量産化に向けた研究開発を提携

### 山梨工場 生産体制の強化

一気通貫が可能で24時間365日生産可能な体制



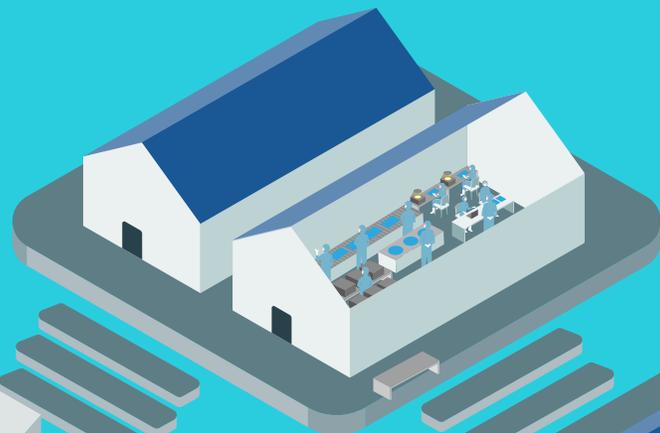
製造設備に加えて工場のデジタル化、リアルタイムモニタリングシステムの開発が進行中

## 受託事業の受注増への対応、生産能力増強へ向けた取り組み

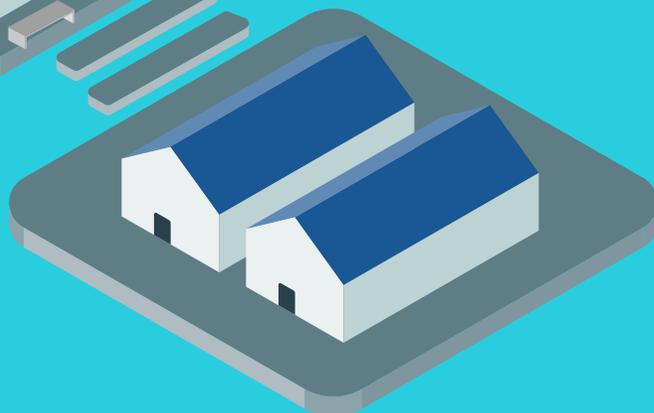
IoT機器・センサー等を活用したスマートファクトリー

省エネルギー、低炭素エネルギーの活用、資源のリサイクル等、環境に配慮した工場

山梨  
工場



鹿沼  
工場



栃木県の鹿沼工場を取得

土地・建物・設備



受託事業の生産能力の拡大

事業成長のための場所確保

BCPの観点から生産体制の  
リスクの分散

人・もの・情報すべてとつながる工場、スマートファクトリー化を図っています。  
 デジタルデータ活用により業務プロセスの改革、品質・生産性の向上を継続発展的に実現する工場を目指します。

## MES（製造実行システム）の導入

とまらない工場

見える工場

つながる工場

各種工程・拠点間  
 の一元データ管理  
 を促進

製造管理

エネルギー  
 管理

実績収集  
 分析

設備保全管理

リアルタイム  
 工程進捗管理

MES  
 データの一元化

品質管理

製造指示

追跡管理

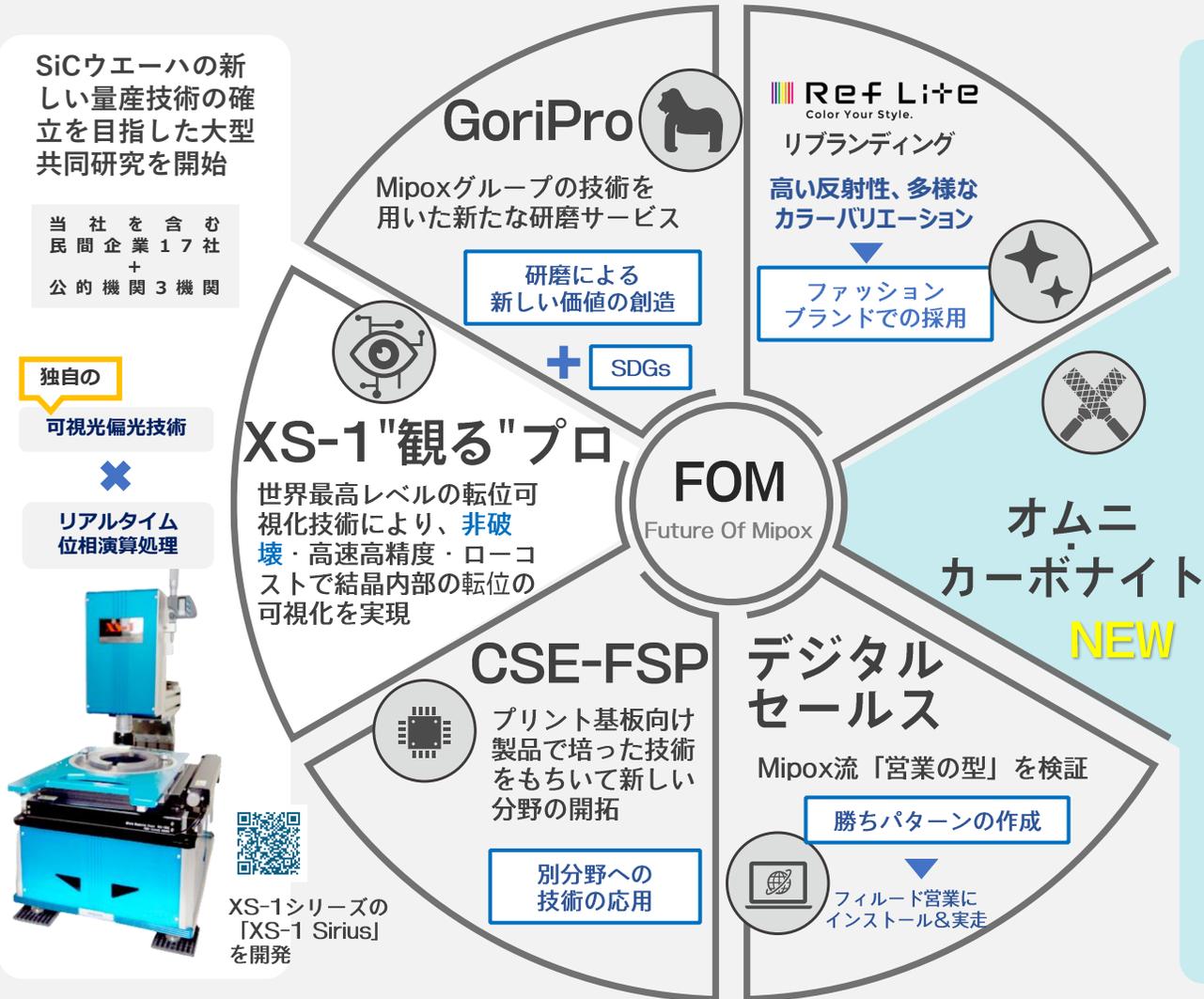
異常検知

既存のERP  
 との  
 連携で更なる  
 効率化

ERP

- 生産管理
- 販売管理
- 在庫管理
- 会計管理

インキュベーション組織FOMにオムニ・カーボナイト事業が新加入  
 新たな製品、サービス、体験、価値を「創造」していきます。



## オムニ・カーボナイト



新たな拠点、呉ベースを中心に新しいヤスリの可能性と付加価値向上を目指す

### オムニ事業

DIY～航空宇宙素材まで

特許取得済みの独自製造方法で従来のヤスリの概念を変えるフレキシブルヤスリの開発と製造

### カーボナイト事業

超高品質ヤスリ

全国レベルの技能を競う大会である技能五輪向けに開発された超高品質ヤスリの開発と製造

**ただただ早く削れるんです**

**NEW**

Qシリーズ  
マジックサンダー Mipox Q

剛Q ゴークュー

Nikken『独自の製法』と『砥粒配列』の組合せによる研削力重視の  
**研削性に優れたマジック研磨紙**

作業時間が圧倒的に短くなる『時短』『楽』ツール

Go9(ゴーナイン)サンダー 剛Q(ゴークュー)

Go9  
オービット  
9mm  
DA サンダー

MADE IN JAPAN

Qシリーズ重研削向けの「剛goQ」を新発売  
「時短/負担軽減」という更なる付加価値を「創造」します。



従来使用されている重研削工程・作業効率の改善に向けて、研磨材総合メーカーの当社だからできる提案でお客様に付加価値を創造します。

## 老舗メーカーとして、常に挑戦を続けるベンチャーとして

2021年11月21日で当社は創業96年目を迎えました。顔料・色箔を輸入販売する商社として創業し、その後、常に世の中の変化と共に歩んでまいりました。

箔の塗布技術を応用した研磨フィルムの製造に成功し、60年代半ばからは研磨材メーカーとして、さらに80年代からは精密研磨材・研磨装置を取り扱う総合研磨材メーカーとしての地位を確立しました。そしてグローバル化、超精密研磨領域へ進出、2004年からはさらなる事業分野拡大、会社のIT化も推進してまいりました。

歴史の長いモノづくり企業ではありますが、これから来る「100年目」も、この先の「100年目」も常に挑戦し続け、変革し続ける「100年ベンチャー企業」を目指します。

経済は「モノからコト」へシフトしています。私たちもそれを強く意識しており、メーカーとして「モノをつくって売る」だけのビジネスから、「価値を提供する」ビジネスへと変革を進めてまいります。



### 1925年

レイホルド商館の顔料、箔部門を独立  
独逸顔料合名会社設立  
顔料・金箔・金粉の輸入販売



### 1967年

研磨フィルム（研磨材）の開発に着手  
研磨フィルムの製品化に成功



### 1981年

日本マイクロコーティング（株）へ商号変更  
海外市場からの取引が急増  
製品ブランド「MIPOX」に統一、海外進出を目指す



### 2001年

日本マイクロコーティング（株）としてJASDAQ店頭市場に上場



### 2013年

Mipox株式会社に社名変更  
事業分野の拡大、IT化推進



### 2025年

創業100年  
300億円売上達成を目指す

# 塗る・切る・磨くで世界を変える

## IRに関するお問い合わせ先

Mipox株式会社

広報・IR

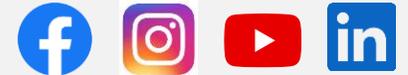
E-mail : [mipoxir\\_dept@mipox.co.jp](mailto:mipoxir_dept@mipox.co.jp)

URL : <http://www.mipox.co.jp/>

mipox



Ref Lite  
Color Your Style.



### 本資料における注意事項

本資料に記載されている将来の業績に関する予想、計画、戦略などは、いずれも当社グループが現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、これらは経済環境、競争状況、需要動向などの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績は、この配布資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。